

■ 病院概要

標榜科

内科、外科、脳神経内科、脳神経外科、整形外科、循環器内科、消化器内科、泌尿器科、腎臓内科、心臓血管外科、糖尿病内科、呼吸器内科、呼吸器外科、放射線科、麻酔科、リハビリテーション科

病床数(全120床)

- ・一般病床／27床
- ・地域包括ケア病床／53床
- ・回復期リハビリテーション病棟／40床

- 回復期リハビリテーション病棟入院料1
 - 脳神経外科医(常勤)勤務
 - 365日リハビリテーション実施
 - 屋外リハビリ庭園
- ※パジャマレンタル・おむつセット導入あり



■ 在宅支援

- 訪問リハビリテーション
- 通所リハビリテーションセンター
コンパス

TEL.0964-53-1633
FAX.0964-53-1650

- 訪問看護ステーション
みすみ

TEL.0964-41-2101
FAX.0964-53-2121(居宅・訪看共通)

- 居宅介護支援センター
みすみ

TEL.0964-53-2120
FAX.0964-53-2121(居宅・訪看共通)

患者さんの権利と義務

私達は、安心して診療・治療を受けて頂くために、病状や治療法などについて十分な説明を行います。
また患者さんのご負担を軽減し、同意に基づいた医療を提供します。

患者さんの権利

- 1.良質な医療を公平に受ける権利
- 2.診療の内容等について十分な説明を受ける権利
- 3.治療方法など自分の意志で決定する権利
- 4.個人の秘密や医療上の情報が保護される権利
- 5.診療記録の開示を求める権利
- 6.あなたの病気について他の医師に意見を求める権利

患者さんの義務

- 1.自分の健康状態を出来るだけ正確に伝える義務
- 2.わからない事柄について質問する義務
- 3.病院の規則と指示を守り治療に専念する義務
- 4.他の来院者に対して迷惑をかける義務

理念と基本方針

医療・福祉を通じて安心して生活できる地域づくりに貢献します。

「地域医療を支援します」「救急医療を実践します」「健康的な生活を支援します」



咲かせよう いのち 世代を越えて いつまでも。



67 Take Free.
2025.1



電動カート
試乗体験
実施中

年頭挨拶

病気のはなし「骨粗しょう症について」

[特集] 新任医師の紹介

みすみ病院のできごと/部署紹介[医療連携部]

病院概要/在宅支援

新年のご挨拶

二〇二五年



院長
吉岡 正一

— 誰もが「誰かの大切なお一人」であることを思い描いて

皆さまあけましておめでとうございます。1年365日の中のたった1日ですが、皆さま、特別な気持ちで新年をお迎えのことと思います。お正月といえば、私が子供の頃は、一つ歳を重ねるという思いが、新年を迎えるに当たっての最も特別な気持ちだったのではないのでしょうか。これは、数えて年齢を数えていた昔の習慣の名残だと思います。

昨年の4月に、18年務めた済生会熊本病院を退職して、済生会みすみ病院の院長に就任してから初めての新年を迎えます。院長職数えの2歳になります。経営的には大変厳しい状況ですが、職員一同、心を一つにしてこの荒波を乗り越えて行こうと決意を新たにしております。

院長になってから、毎週水曜日には、全ての入院患者さんの回診をしております。圧迫骨折や脳梗塞後のリハビリ目的の入院が多く、こちらに来て強く感じたのは、90歳以上の患者さんが普通にいらっしゃるということです。94歳、95歳は当たり前。時には100歳超えの方もいらっしゃいます。しかも、皆さん受け応えはしっかりしていらっしゃって、頭も体も、しっかりしていらっしゃいます。治療終了後は元気に自宅退院して行かれます。外科手術の対象患者さんで、90歳超えといえば、超高齢者枠の特別な患者さんと考えていた頃からすると、ちょっとしたカルチャーショックです。回診でお話ししていると、「歳は数えて〇〇歳」とお答えになることもしばしばです。Wikipediaで調べてみたところ、「ゼロ」という数の概念がなかったこと、現在の太陽暦と違い、明治期まで使用されていた太陰暦では3年に1回くらい閏年(うるうどし、この年は1年が13ヵ月)があり、満年齢の方が数え難かったことなどが理由のようです。ちなみに、競走馬の年齢は、数え年で表現するようにとの国際規約があるそ

うです。回診で人生の大先輩に接していると、たとえ数か月でも、「ゼロ」の人生などなく、生まれてから新年を迎えるまでの確かにあった人生がある意味意義あるものにしていく価値観の表れなのかなとも思います。

大学卒業して医師になってすぐから、患者さんに接するときには、どんなにお年寄りでも、長年の人生が、お一人お一人にあったということに思いを馳せ、皆さまのこれまでの人生を尊重した診療、たくさんのご家族にとって大切なお一人なのだという気持ちを持って、患者さんに対応することを心がけています。研修医や学生さん達が手術の見学においてになったときも、手術台の上に裸で横たわる患者さんには、長年の人生が詰まっており、たくさんの方の思いに囲まれているのだと言うことを念頭に置きながら手術に臨むような外科医でありなさい、と指導してきました。もちろん、患者さんだけではなく、共に働く職員の皆さまに対する私の思いも同じです。職員一人一人の人格、これまで歩んできた人生、縁あって一緒に職場で働いている事への感謝、背景に控えている家族のことを思い描きながら職員の皆さまと接するようにしております。

今年も、私を含めて、患者の皆さま、職員の皆さま、職員家族の皆さまにとって、笑いの絶えない、幸せな1年になりますよう、病院経営を頑張っていくつもりです。未熟な院長ではありますが、お互い勉強しながら、困難を乗り越えていきましょう。



骨粗しょう症について

放射線検査室／篠田広幸

○ 骨粗しょう症は沈黙の病気

みなさん知っての通り、骨粗しょう症は、骨の強度が低下し、ちょっとしたことで「骨折しやすくなる」病気です。骨折の箇所によっては、寝たきりになり、死亡率が高まるとのデータもあります(注1)。また、顔の骨がスカスカになると、しわやたるみの原因にもなるとか…。骨粗しょう症は自覚症状がありません。骨折してはじめて、骨粗しょう症だったと分かることから、「沈黙の病気」のひとつに挙げられます。



○ 骨密度検査で最も優れた検査はDXA(デキサ)法

骨粗しょう症の検査は数種類あります。各検査の特徴を表にまとめました。結論からいうと、骨密度検査で最も優れた検査は「DXA(デキサ)法」です(注2)。DXA法は経年変化を捉えることができ、最も高精度な検査だからです。被ばくに関しては、胸部レントゲンと同等の被ばくで、健康に影響を与えない数値となっています(注3)。みすみ病院でも、このDXA法で撮影した画像に、腰のレントゲンや採血データなどを用いて正確に診断しています。

方法	精度	被ばく	備考
DXA法 	◎	極少量	2種類のX線を用いて腰、股関節、全身などを直接測定する。正確に測定でき、経年変化もとらえられる。骨粗しょう症学会ガイドラインにおいて最も推奨されている検査方法。寝た状態で5～10分ほど時間がかかる。大掛かりな装置のため、大きい病院でないと測定できない。
MD法 	○	極少量	手の骨とアルミニウムをレントゲンで撮影し、骨密度を推測する。骨折リスクの予知がある程度可能で体幹部への被ばくがない。骨粗しょう症の診断に用いることができるが、経年変化がとらえにくい。早期のものは見つけにくい。
QUS法 	×	なし	超音波を使い、超音波の伝わる速度などから骨密度を測定する。簡便で短時間で測定ができ、被ばくがない。スクリーニング(ひろいあげ)として使用される。測定の誤差が生じやすく、骨粗しょう症の確定診断には使えない。

50歳以上の方は、一度は検査を

まずは、自分が骨粗しょう症か知ることが大切です。骨粗しょう症は40歳後半から予備軍が増加します。40歳以上の方は、5年おきにDXA法で骨密度検査を受けることをおすすめします。もし、骨粗しょう症と診断された場合、早めに対策を行うことで、美容や健康寿命が大きく変わってきますよ。



○ 健康寿命を高めよう

アインシュタインは、人類最大の発明は「複利」であると言いました。スクワット5回や軽いウォーキングなどで良いので、毎日コツコツ習慣づけることで、骨粗しょう症は予防できます。日頃の習慣を見直し、「複利」を味方につけて健康寿命を高めましょう。

・骨粗しょう症の要因と対策(注1)

避けられない要因	避けられる要因	対策
<ul style="list-style-type: none"> ● 加齢 ● 女性 ● 体形(小柄) ● 閉経 ● 過去の骨折 ● 骨折家族歴 など 	<ul style="list-style-type: none"> ● 運動不足 ● 日照不足 ● 極端な食事制限 ● 過度な飲酒 ● 喫煙 ● カルシウム不足 ● 食塩、砂糖、コーヒーの過剰摂取 など 	<p>「避けられる要因」に気をつけ、下記を日頃からコツコツと続けましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● バランスの良い食事 ● 無理なダイエットはしない ● スクワットやウォーキングなどの運動(軽いものでOK、毎日継続) ● 適度な日光浴 ● BMIを標準に保つ

注1. 骨粗しょう症の予防と治療ガイドライン2015年版 より参照

注2. DXA: Dual Energy X-ray Absorptiometry(二重エネルギーX線吸収測定法)の略
MD: Microdensitometry法の略

QUS: Quantitative ultrasound(定量的超音波測定法)の略

注3. GE HealthCare X線骨密度測定装置の被ばく量に関して より参照



新任医師の紹介

10月より新たに3名の医師が着任いたしました。
どうぞよろしくお願いいたします。

常勤医師

脳神経外科

濱崎 清利 はまさき きよとし

専門分野

脳神経外科一般 / 認知症予防

先生から一言： 12年ぶりに故郷の病院へ勤務することになりました。適切な地域医療の提供を心がけます。



常勤医師

内科・総合診療科

岸川 秀樹 きしかわ ひでき

専門分野

内科一般 / 代謝内科全般

先生から一言： 前任の上天草総合病院でお会いした患者さんも多くいらっしゃいますので、引き続きお役に立てるよう診療に従事してまいります。



非常勤医師

整形外科

錦戸 悦夫 にしきど えつお

専門分野

整形外科全般



みすみ病院の できごと

SAISEIKAI MISUMI HOSPITAL

花いっぱい活動

例年実施している主任・係長研修のグループ活動の一環で、10月25日終業後にボランティア活動を行いました。

以前、花いっぱい活動と称して病院外周に芝桜を植えました。土が固くなかなか根付きませんでした。そのため、今回病院入口前へ植え替えることにしました。主任・係長の有志が集まり、芝桜掘り起し班と土入れ替え班の二手に分かれて作業を開始。話を聞いた別のスタッフも手伝いに来てくれ、予定よりも早く作業を終えることができました。

終了後には「きれいになったね」や「春に花を咲かせてくれるのが楽しみ」といった声も聞かれました。

今後も患者さんやスタッフが季節を感じられる温かい病院づくりを目標に、活動を継続してまいります。

経営企画室



部署紹介★

医療連携部



部署や事業所・行政等と連携し 様々な業務を行っています

医療連携部は、それまであった医療相談室に地域連携室を新設し、2013年に部としてスタートしました。現在は、部長の田中靖章先生(循環器内科)、副部長の石田看護部長、山口事務長と相談しながら、無料低額診療事業、なでしこプラン、転院相談受付、退院支援、病院・診療所・介護事業所や行政等との連携、出前・健康講座など様々な業務を看護師2名、MSW4名の体制で行っています。

